

宮城県南部の空間線量率の現状

石井慶造、寺川貴樹、松山成男、菊池洋平、長久保和義、石崎梓、藤代史、新井宏受、長田直之

東北大学大学院工学研究科
生活環境早期復旧技術研究センター

1. 目的

宮城県南部の平成24年3月27日現在に至るまでの空間線量率の時間変化を調べる。

2. 方法

東北大学は、2011年3月15日以降、宮城県の南部の空間線量率を毎週測定している。測定はNaIサーベーターで行っている。測定データを用いて、2012年3月1日までの時間変化を作成する。

3. 結果（平成24年3月27日発表）

図1に東北大学が空間線量率を毎週測定している観測点を示す。観測場所は7箇所である。図中のグラフは、各観測点での空間線量率の時間変化を示す。全体的にCs-134の半減期とウェザリング効果によって少しずつ減衰していることが分かる。

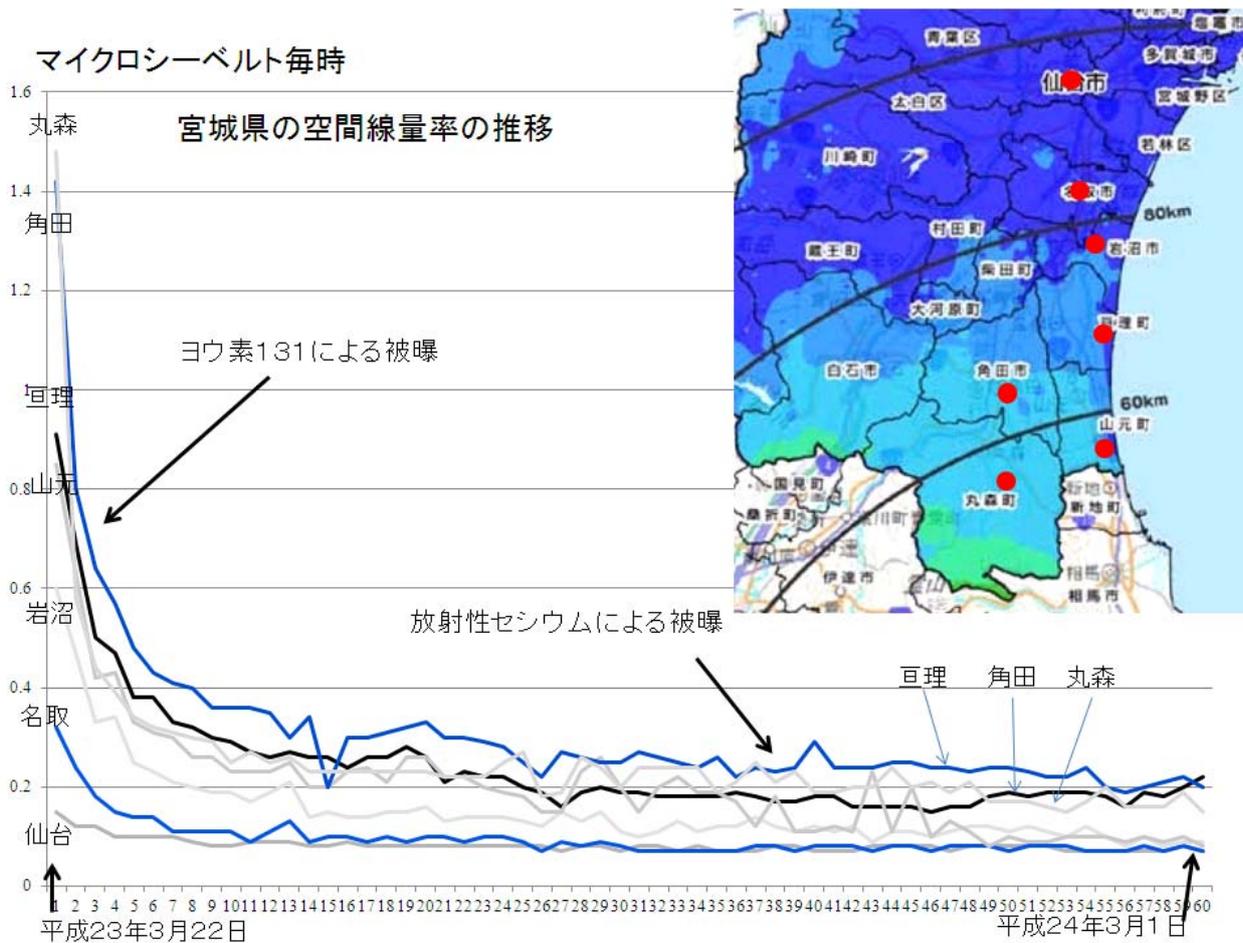


図1 宮城県南部における空間線量率の時間的変化

作成者：石井慶造